行政視察報告書　　総務文教委員会　　　2017年10月13日(木)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11番　石井通春

|  |  |
| --- | --- |
| 視察先 | 青森県八戸市 |
| 研修テーマ（調査項目） | ブックセンター |
| 1. 取組の内容評価

・23万都市で現市長が文化育成を柱にしている（婦人之友創刊者の出身地とか）・町の中心部に位置し、本の貸し出しではなく販売を実施している・学校図書司書は3名の巡回（当初はゼロ）・2016年4月にオープンし、4階建て元商業ビルの1階部分で営業。2階3階はヤフー事務所、4階にビルオーナーの住居・ブックコーディネーターの専門家（内沼善太郎）のアドバイスで内装等考えた・4000万の赤字が見込まれているのに何故やるのかとの意見が多かった。それに対し　一度本を手に取って読むことで知的好奇心が刺激される　本が身近にあるくらしを市が創出する事により市のイメージがUPする　利益追求の本屋は売れる本（コミックや雑誌など）を追いかけるのでそことの差別化・本の検索システムは導入していない。本との偶然の出会いを大切にする・カンズメブース（個室）を設けて読書に親しむ1. 今後の課題

・売ることに主眼を置くのではなく読むことに主眼を置くというが、どうしても財政的な理解が得られるのか。オープン当初の入場者数は多かったようだが、現在すでに落ち着いてきておりそうした経緯が進む下での市民理解が得られるか・普通の図書館を町中に作る事ができなくなるのではないか（市民にとって不便になるのでは）1. 本市に反映できると思われる点

・八戸市のありかたは一つの考えかもしれないが、本と親しむには蔵書数の増加とその人に会った本を探す事を専門職としている司書体制の充実（正規職員化や配置増など）を図るべきであり、あえて反映させることもないと感じる。1. その他
 |